

「土砂災害から学ぶこと」

東京都 成城中学校 3年 ^{しもかわ ひろと} 下川 大翔

僕は、近年、土砂災害がたくさん起きていることで、改めて、土砂災害の恐ろしさ、また、命の尊さを感じる機会が増えたような気がしています。

例えば、平成 26 年広島での土砂災害では、死者約 70 人ほどとなりました。また、昨年(平成 27 年)には、鬼怒川の氾濫により、栃木県や茨城県に甚大な被害が渡りました。親の友人が茨城県の常総市に住んでいたため、何かできることがないかと両親が話し合っていました。僕も一緒におにぎりや漬物、水、カップ麺、お米、毛布などを届けに行きました。行く道が寸断され、土が道に押し寄せていて、僕が着いた地域は床下、床上浸水していて、泥臭い匂いが漂っていました。田畑が流されていて、大きな石ころも多数あり、大変な状況だったのがみてとれました。ボランティアの青年会の方々がお家の中のものを片付けしたり、道を通ることができるように流れてきたものを撤去する作業をてきぱきとしていました。僕は状況を見て他人事には考えられないと思いました。土砂災害により自分達の築いてきたものを全てを流され、大切な命までも失ってしまう。どんなにつらいことかと胸が締め付けられるような思いでした。そこで、「どうしたらこのような土砂災害の被害がなくなるのか、自分達はどうしたらよいのだろうか。」調べて考えてみました。

まず一つ目に、普段から自分達の住んでいる地域の土砂災害危険箇所を確認しておくことです。今回自分達の住んでいる地域のハザードマップを確認しました。いつも危険に感じていなかった箇所が該当していたので、驚きました。避難場所も地図上に図式され、分かりやすかったです。家族で前から避難場所は近くの中学校と決めていましたが、他の避難場所もいざというときに視野に入れることができました。各家庭でハザードマップや避難場所を確認することが大切だと思います。

二つ目は、天候に注意を払うことです。近年、ゲリラ豪雨、集中豪雨が日本の各地で頻繁に起こっているため、空や雲の様子の変化を普段から気をつけることや大雨をもたらす台風の進路など天気予報を定期的に確認すること、土砂災害警戒情報に注意することはとても大切だと思います。また、災害が発生すると、デマや噂が広がることもあるそうだと東日本大震災のときに聞いたことがあったので、そのようなときに、ラジオなどで正しい情報を得たり、コミュニティを確認したり、冷静に見極める力も重要になってくると思います。さらに、土砂災害の報道で、焦って避難し災害にあうこともあったり、避難せず災害にあうこともあることを知り、そのようなときの判断力が必要であることを考えさせられました。

三つ目は、災害が起きたとき、家庭内でどう備えるかということです。非常用持ち出しバックや災害に各自がしばらく持ちこたえられるような非常用食や水など備蓄品を確認することも心がけるべきだと思います。東日本大震災のときに、買いに走るという光景がみられ、必要なところに物資が届かなくなってしまったと聞きました。何かあったときではなく、日頃から備えることが大切であると思いました。わが家では、リュックサックにラジオ、電池、マッチ、小銭、簡易トイレ、ろうそく、ラップ、救急薬品をまとめていましたが、そこに救助を呼ぶための笛やビニール袋と新聞紙を加えました。新聞紙は保湿性が高く布団や衣類にもなるようで色々な活用ができるそうです。今回、家族での再確認をすることができました。

私たちは自然と共存し生活を営んでいます。土砂災害はいつ自分の周りに起こるのか分かりません。どのように自分達の身を守り危険にさらされないように、冷静に行動し、身や命を守ることを優先に、災害への心構えを一人一人持つことが大切だと思います。

長野県木曾町では、1953 年 7 月 20 日に起きた土砂災害を忘れないために「蛇抜けの碑」というのが建てられているそうです。このように、後世に伝える努力をしています。僕達一人一人が土砂災害への意識を高め、大切な命を守っていくことが重要だと思います。